

アニメ映画「もののけ姫」における自然と神の分析

ジアド
(0542038)



日本文学部
マラナタ大学
バンドン
2009

序論

私はこの論文で「もののけ姫」という映画を通して、自然と神を分析する。この映画は、1997年、日本で有名なアニメーション監督、宮崎駿（Miyazaki Hayao）に作品である。この映画は1999年に日本および世界で放映されたものである。

日本は島嶼国家であり、日本社会は自然との均衡を保ってきました。和辻哲郎は、「風土」のなかで、日本社会についてこう述べています。「日本社会は人間が生に自然を知るのではなく、自然の方が先なのである。自然の内にある個々のもの、すなわち自然一般の理念によって、規定せられている。」

この理念は課題、日本社会にとって重要なものである。日本の社会は日常生活を営むにおいて自然のさまざまな要素が関わっている。

一方、神というのは日本人にとっては自然を守る役割を果たすものである。自然のすべての要素に守る神がいるのです。人間が自然を敬うなら神は人間を助け、人間が自然を敬わなかったら神は人間を罰するのです。

『もののけ姫』におけるテーマは、神と人間との戦いについて述べると同時に自然と神と人間の関係を描いています。私はこのアニメを心理宗教的アプローチ理論を使って分析をします。心理宗教的アプローチというのは信仰宗教の影響における人間の行動を研究するアプローチです。

本論

「このつぶてに覚えがあるはず。巨大なイノシシ神の骨を砕き、肉を腐らせ、タタリ神にしたつぶてです。この痣はそのイノシシに止を刺した時に受けたもの。死に至る呪いです。」

この対話はアシタカが言う台詞です。アシタカはエボシに思い出させるために言うのです。このつぶては人間と神との関係が悪くなる印です。エボシとタタラバの市民は自然を搾取します。このことは自然と神を怒らせてしまうのです。

タタラバの市民と神との関係が悪くなったのを知ってアシタカは今までの調和的な生活を戻すために行動を開始します。アシタカは戦争でタタラバ市民と神との悪い関係が直すことはできないと思っています。それどころか憎みと恨みが増すばかりです。アシタカは守り神のモロに森と人が争わず済む道があるかどうか何度も聞いてます。

「モロ、森と人が、争わずに済む道はないのか。本当に、もう、止められないのか。」

他の方法を持たないモロは、わがままな人間が切り倒した木が泣いたのを知らないのかと言うだけです。自分は森を守る義務を果たすだけだ。人間と戦うことになって、この義務はやりとおすとモロは言います。

一方、自然についてエボシとタタラバは別の考えを持っています。自然は人間が利用するものだと言う考えです。彼らは森を搾取するのが間違っているのだとは思っていません。飢饉と戦いで無駄に死ぬ人が出ないように自分たちの生活を守りたいだけです。

自然についてエボシの考えに対してアシタカのほかに、サンも反対します。

サンはモロに育てられた人間でモロが子としてみなしています。サンは森と同じ考えを持って、自然にエボシとタタラバが取った行動にがっかりします。そして、エボシへの殺意を擁きます。サンは自然と神と人間の関係についてアシタカと同様の考えを持っていますが、その一方で自然と神と人間が争わず済む道を求めていったのです。

結論

宮崎駿作の「もののけ姫」のアニメには、「自然」「自然を守る神」そして、「神と人間と自然との共生」が大きなテーマとして描かれています。

DAFTAR ISI

	Halaman
KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	iv
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang	1
1.2 Pembatasan Masalah	5
1.3 Tujuan Penelitian	5
1.4 Metode Penelitian	6
1.5 Organisasi Penulisan	10
BAB II 自然 DAN 神.....	11
2.1 Konsep 自然 (<i>shizen</i>).....	11
2.2 Pandangan Masyarakat Jepang Terhadap 自然	14
2.3 Pengertian <i>kami</i>	19
2.3.1 Tempat Persemayaman Dewa.....	23
2.3.2. Konsep Alam Gaib.....	24
2.4 Ringkasan Teori.....	26
BAB III PANDANGAN TOKOH-TOKOH DALAM “MONONOKE HIME”....	28
3.1 Pandangan Ashitaka.....	31
3.1.1. Pandangan Ashitaka terhadap Eboshi	32
3.1.2 Pandangan Ashitaka terhadap alam	34
3.2 Pandangan San terhadap manusia.....	36

3.3	Pemikiran para <i>Kami</i> terhadap manusia.....	38
3.3.1	Tatari <i>gami</i>	38
3.3.2	Moro.....	39
3.3.3	Okotto.....	42
3.3.4	<i>Shoujou</i>	44
3.4	Pandangan Lady Eboshi.....	47
3.4.1	Terhadap San dan Shishigami.....	48
3.4.2	Terhadap alam.....	50
3.5	Tokoh-tokoh lain.....	51
3.5.1	Pandangan Jigo terhadap alam.....	52
3.5.2	Osa.....	53
3.5.3	Orang-orang di kota besi.....	55

BAB IV KESIMPULAN	58
--------------------------------	-----------

SINOPSIS

DAFTAR PUSTAKA

LAMPIRAN

RIWAYAT HIDUP PENULIS